

### 1 地盤

岩盤、硬い砂礫層、砂利混じりの層で硬くしまったところなど、良い地盤の敷地を選ぶことが大切です。

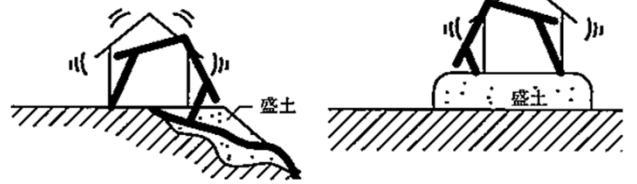
#### ●地盤による地震の建物への影響

イ. 軟弱地盤



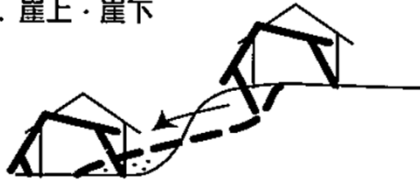
共振がしやすく、揺れが大きくなる。

ロ. 盛土地盤



地盤が柔らかく、揺れが大きく崩れやすい。

ハ. 崖上・崖下



がけの崩壊

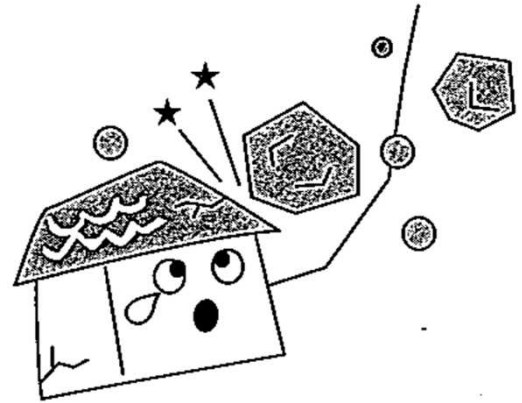
ニ. 異種地盤



地盤の揺れ方が異なる。

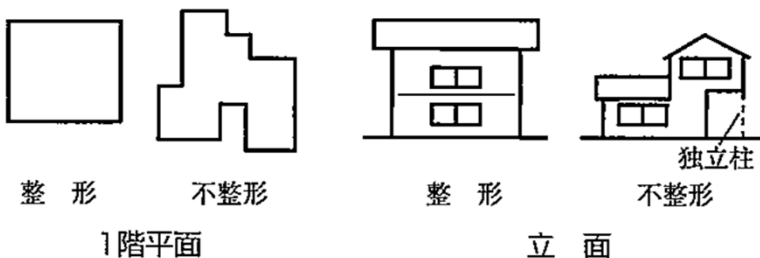
### 2 周囲の状況

がけ崩れ、土石流、洪水等によって被害を受ける恐れがある敷地は避けることが大切です。



### 3 家の形

地震の力が建物全体へ平均に伝わるような単純な形（整形）が最も良く、凹凸の多い建物は、地震に対して弱くなるのでできるだけ避けるようにして下さい。



# 4

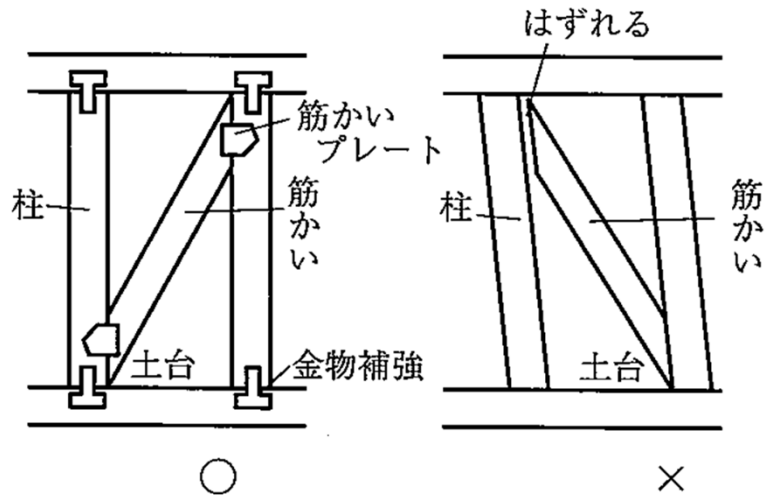
## 壁・筋かいの配置

筋かいの入った壁が多いほど、建物は地震に対して強くなります。筋かいの入った壁を建物全体にバランスよく配置することが大切です。

### ●正しい筋かいの入れ方

筋かいの上下は金物を使って柱や土台にしっかり取付けることが大切です。

しっかり取付けないと地震のときにはずれる恐れがあります。

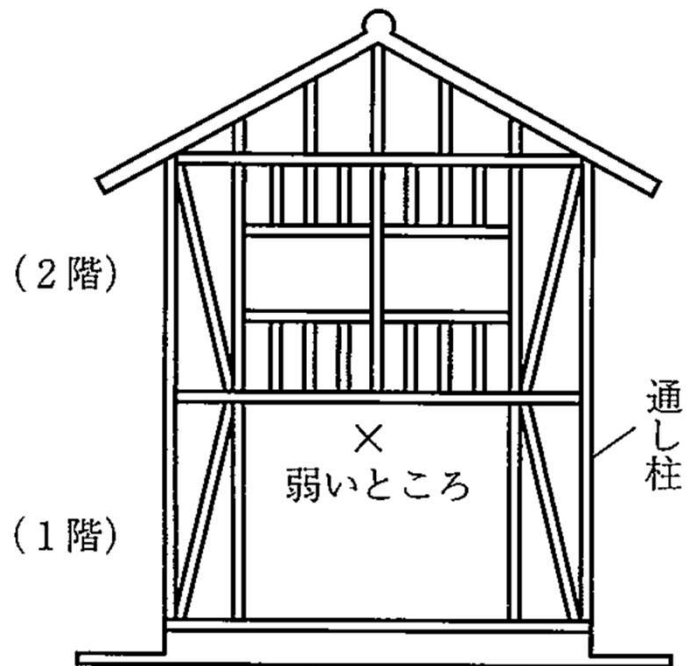


# 5

## 柱の配置

2階建ての場合は、間取りを考えるとときに、2階の柱が1階の柱の上にくるよう配置することが大切です。

また、建物の隅の柱は他の柱より太くし、通し柱とすることが有効です。



# 6

## 屋根の軽量化

地震には軽い屋根が有効です。

重い屋根の場合には、柱や梁を屋根の重さに耐えるように強くすることが必要です。